

令和5年度

事業所における自己評価結果 (公表)

事業所名 カンガルー療育支援室セントラルステーション

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容 又は改善目標
環境・ 体制 整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	4	2		長期休みなど児発の子どもたちと利用時間が重なった際は配慮している	・児童発達と放課後デイが重なる時間の使い方に課題が残る ・子どもの集中が続くように個室や仕切りがあるスペースが必要
	②	職員の配置数は適切である	1	2	3		児童指導員が1名で負担が大きい医ケアのある利用者が増えている(ほぼ全員)のに看護師が少ない
	③	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	3		3	玄関から療育室へ直進で入れるよう、スロープ台を2台使用する工夫をしている	・部屋の出入り口のとびらが狭い ・玄関から直進方向の扉には段差があり、バリアフリーになっていない。災害時などの避難対応に注意が必要
業務 改善	④	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	1	3	1		・PDCAサイクルを意識した業務改善はされていない ・今後、注力していく
	⑤	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	2	1	2		・保護者様からの評価を真摯に受け止め、スタッフ全員で共有し、業務改善に努めたい
	⑥	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	2	2	1		年度末に、ホームページにてしている継続
	⑦	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		3	2		コロナ渦等で開催できていないため、次年度は開催したい
	⑧	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	6				・定期的に研修を行い業務知識の向上に努めている ・部外研修への参加を進めていく 継続
適切 な 支 援 の 提 供	⑨	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	6				・スタッフ全員でのアセスメント、保護者と定期的な面談を行い支援計画の作成に努めている 継続
	⑩	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している		5			標準化されたツールがない為、今後作成し活用していく
	⑪	活動プログラムの立案をチームで行っている	4	1	1		児童指導員が中心になって、立案していた
	⑫	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	6			・季節に合わせた活動プランを考えている ・活動が重ならないように配慮している	継続
	⑬	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	3	2			平日、長期休暇に応じた課題設定ができていなかった。 課題設定を行い支援していく
	⑭	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	4	2			利用者数が少ないため、集団活動の機会が少ない
	⑮	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の内容や役割分担について確認している	4	2			朝礼時に、活動内容の確認は行っていたが、役割分担については明確にされていないことがあったので、改善していく
	⑯	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	2	3	1		当日には振り返りはできていないが、翌朝の朝礼で前日の利用者の様子を伝え共有するようにしていた
	⑰	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	6			日々の支援等を、個別の支援記録表に記録し支援の検証・改善に努めている	継続
	⑱	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	6				半年ごと及び計画に変更が生じた時は見直しを行っている 継続
	⑲	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	2	4			ガイドラインを再度スタッフ全員で理解する必要がある
	⑳	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	5				継続

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容 又は改善目標
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	⑳	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	6				利用予定表を活用して保護者から情報を頂き、また学校からの年間予定表や行事予定表を確認しているが、変更があったときの調整が不十分な点があった
	㉑	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は子どもの主治医等と連絡体制を整えている	5				継続
	㉒	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	1	3	1		・就学前より当事業所を利用しているため、放課後デイを引き続き利用したい ・就学前に他の事業所をご利用の場合は情報共有・相互理解に努めていく
	㉓	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している		5	1		移行する利用者がいないが、今後情報提供を行う必要がある
	㉔	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	1	3	1		専門機関と連携し、必要な情報共有はしているが、研修は受けられていない
	㉕	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	3	1	2		同一法人内の保育園との交流は図れている
	㉖	(地域自立支援) 協議会等へ積極的に参加している	2	3			管理者が定期的に自立支援協議会に参加しているが、職員周知が不十分であったため、今後しっかり周知していく
	㉗	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	5	1		送迎時や連絡帳・LINEで共有している	日々お伝えしているが、送迎時間内では共通理解に限界がある為、もっと関わる機会が必要である 継続
	㉘	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	2	3			ペアレントトレーニングについての理解・研修等を行い支援につなげていく
保護者への説明責任等	㉙	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	4	1			継続
	㉚	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	6				継続
	㉛	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		2	3		保護者会が開催できていないので、SNS等を利用して開催したい
	㉜	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	5	1		相談内容に応じ適任者が対応するように努めている	苦情に対しては、迅速に対応している 継続
	㉝	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	3	1	2		SNSを活用し情報発信を行っているが、全保護者に届いていないため、今後の課題である
	㉞	個人情報に十分注意している	6				継続
	㉟	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	6				継続
㊱	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		3	2		地域住民との交流が図れるよう努めていく	

		チェック項目	はい	どちらとも いいない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容 又は改善目標
非常時等の 対応	③⑧	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	4	1		各種マニュアルは作成、し防災訓練は定期的実施	保護者等への周知が不十分であったので、今後周知していく 継続
	③⑨	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	6			利用者の災害時用品(食料・内服薬・医ケア品)をお預かりするとともに、定期的に訓練を実施している	継続
	④⑩	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	6				継続
	④⑪	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	2	4		身体拘束が必要な利用者がいないが、日々の連絡帳に拘束の有無を記入している	保護者への説明については不十分であるため、契約時・面談時等で説明する
	④⑫	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	5	1			該当者なし アレルギーマニュアルに沿った対応を行う 継続
	④⑬	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	5				継続

この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。